

短歌

おおた あいか ちよう

大田哀歌鳥



防府市
(1890～1977)

大田哀歌鳥は、歌人。佐波郡佐波村（現・防府市）生まれ。本名・義一。大正十一年、下関清末・毛利碧堂主宰の「白梅詩社」に参加。県下初の歌誌『白梅』の編集・発行を担当し、歌作や評論に活躍した。昭和二十五年七月、歌誌『自画像』を主宰・創刊するも、翌年二月廃刊。昭和二十八年から岩松文彌主宰の歌誌『あらつち』に参加。中心的存在となり、昭和四十三年夏以降編集を担当、四十八年九月から主宰。県歌壇の重鎮として多くの後進を育てた。苦難続きの人生を叙情的に歌い上げた秀作が多い。歌集『聾者の歌へる』『自画像』がある。

（森川信夫）

【主な著作】

歌集『聾者の歌へる』（大正11年）

歌集『自画像』（自画像刊行会、昭和45年）